

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104225
法人名	株式会社 グロリアコーポレイション
事業所名	グループホーム めぐみの丘冷水
訪問調査日	平成20年2月25日
評価確定日	平成20年3月21日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104225
法人名	株式会社 グロリアコーポレーション
事業所名	グループホーム めぐみの丘冷水
所在地	〒892-0855 鹿児島市冷水町10-19 (電話) 099-222-7634
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成20年2月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	4人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	203 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 80 円
	または1日当たり 円		

利用者の概要(2月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79 歳	最低	66 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池之上クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市の中心部に近い閑静な住宅地にあり、裏手の山は緑が多く、隣接して広い畑があり、入居者は季節の野菜などを育てている。散歩や買い物、催し物などに出かける機会を多く設けており、日帰り旅行も大きな楽しみとなっている。入居者一人ひとりの気持ちが大切にされ、家族的な雰囲気の中で自由に過ごすことができる。サービスの質向上のために勉強会が頻繁に行われ、管理者自ら、地域の方々に向けた認知症の説明会や相談会、及び他のグループホームとの合同勉強会を開催するなど、地域に密着した視点で取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、特に改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は3回目であり、管理者及び職員は、その意義と重要性について十分理解している。管理者が起案作成したのち、ケア会議にて全職員で検討を行い、業務の見直しや改善につなげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会会長・副会長、老人会会長、地域包括支援センターのケアマネジャー、そしてホーム側から2名が参加して二ヶ月ごとに開催されている。ホームの運営状況や行事、外部評価の報告などを行い、地域との関わり方や、相談、情報交換などについてそれぞれの立場から意見が出され、サービスの質向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「めぐみの丘冷水通信」を発行し、入居者個々の暮らしぶりや健康状態などを報告しており、近くのご家族には、管理者が訪問して直接近況を報告している。電話や訪問の際に意見や苦情を聞く機会を設けるほかに、年1回のアンケート調査も行っており、不具合処理表を作成して、全職員で検討を行いサービスの質向上へ向けて取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、おはら祭りや地域行事への参加、ボランティアの受け入れなどを行っている。また地域の方々に向けて、認知症についての説明会や相談会を行い、地域の一人として地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人の尊厳、その人らしい生活の支援、ご家族も社会的に支援するなど個別支援の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を中心に、勉強会をはじめ毎月のケア会議や朝夕のミーティングなどを通じて、理念について話し合わせ共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、おはら祭りへの参加やボランティアの受け入れ、餅つきの道具を借りるなど交流の機会が多い。また地域の方々を対象とした、認知症についての説明会や相談会も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は主として管理者が起案作成したのち、ケア会議にて全職員で検討され、業務の見直しや改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会会長・副会長、老人会会長、地域包括支援センターのケアマネジャー、そしてホーム側から2名が参加して2ヶ月ごとに開催されている。ホームの運営状況や行事、外部評価の報告などを行い、地域との関わり方や相談、情報交換などについてそれぞれの立場から意見が出され、サービスの質向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターをはじめ、市の高齢者福祉課や生活保護課などと、運営やサービスの課題等について話し合いや相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「めぐみの丘冷水通信」を発行し、入居者個々の暮らしぶりや健康状態などを報告しており、近くのご家族には、管理者が訪問して直接近況を報告している。金銭管理については、毎月領収書を添付した上で報告し、適切に管理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や訪問の際に意見や苦情を聞く機会を設けるほかに、年1回のアンケート調査も行っており、不具合処理表を作成して、全職員で検討を行いサービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年の異動及び離職者は比較的少なく、入居者への影響は特になく推移している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成には特に力を入れており、採用時研修やテーマ別研修など、計画に沿って熱心に取り組んでいる。また、他のグループホームとの合同勉強会を毎月開催したり、グループホーム学会での発表なども行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークづくりや合同勉強会の開催、相互訪問や運動会への参加を通して、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員やサービスの場に徐々に慣れていただけるように、遊びに来てもらったり、1日入居体験なども行っている。入居後も安心して生活できるように、ご家族に定期的に訪問してもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりの気持ちを大切にして、一緒に台所仕事や炊作りをしている。入居者と職員が共に助け合い、労い、分かち合う環境づくりに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや暮らし方の希望など、日々の関わりの中で把握するよう努め、ご家族からの情報も得て全職員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	独自のアセスメントを基に、本人及びご家族の要望を取り入れながら、職員間で意見を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもとより、変化の生じた場合はその時のニーズに合わせた新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者及びご家族の意向により、病院受診のための送迎などが必要な場合は支援している。また、看護師を配置して医療連携体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族の意向を尊重してかかりつけ医を受診するが、必要な場合は協力医療機関を利用することもある。いずれの場合にも、情報を共有するように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、本人やご家族から要望を聞き、全職員が個々の方針を共有している。「ターミナルケアについての要望一覧表」があり、定期的に要望を聞いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの思いを聞き、その人らしい生活を大切に優しく誠実な対応が見られる。記録等の書類は事務所に保管され、職員の守秘義務は徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向や気持ちを大切にしており、食事とおやつの時間は決まっているが、そのほかは自由に過ごすことができている。職員の就業時間が終わっても、それとなく引き継ぎ、気分が高ぶらないに配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどを、入居者と職員が一緒になって楽しそうに会話しながら行っている。食事介助の必要な方を支援しながら、和気藹々の雰囲気の中で食事しており、入居者が畑で作った野菜が食卓に上がることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴時間は設けているが、入居者の希望に合わせて入浴を楽しめるように、柔軟な対応がなされている。時々近くの温泉に出かけることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の気持ちや、その人らしい普通の生活を大切にできるようにしている。趣味の折り紙や読書、また食事の準備や後片づけ、洗濯物干しやたたみ、畑の仕事などに取り組めるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や天候を見ながら、近くの公園の散歩や買い物など、外出の機会が多い。出入りを自由にしてあるため、日に何回も散歩に出られる方や、野球観戦や墓参りなどに出かける方もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間玄関は施錠されておらず、自由に出入りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て消防訓練を行っている。また、入居者の個別の状態に応じた緊急避難マニュアルを作成している。近隣の方々や民生委員には、非常災害時の協力をお願いしている。	○	ホームの立地条件を考慮すると、災害時には地域の協力が欠かせないものと思われる。近隣の方々の消防訓練への参加を、引き続き呼びかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの嗜好、日々の体調、口腔状態を把握しており、個々に応じた支援をしている、口腔チェック、食事、水分摂取量などは個々に記録されている。栄養に関する勉強会も行っている。	○	カロリーなどについて定期的に把握するために、協力医療機関や保健所の栄養士などによる協力・支援に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地は広く、菜園や木立に囲まれており、自然な環境に恵まれている。季節感のある掲示物や花飾りがあり、リビングルームには大きめのテーブルが置かれ、雑談や手作業を楽しみ、ソファでゆったりとテレビを観るなど、居心地よく過ごしている。トイレは3ヶ所あり、利用しやすいつくりになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある家具やテレビ、小物などが持ち込まれており、ベッドの高さや家具の配置など、本人が居心地よく安全に生活できるように工夫されている。		